

産業論

担当者 明石 芳彦

開講時期 後期

単 位 2

●講義の概要

個別産業の実態を分析するための理論的・概念的 분석枠組を概説するとともに、特定の関心や着眼点に基づく研究上の課題を研究するための分析手順、分析手法、先行研究レビューの仕方等を概説する。

●講義の到達目標

産業の形成と成長・成熟・衰退という歴史的経緯を踏まえて、産業としての機能、特徴、課題を分析するための理論的・概念的基礎能力を修得する。具体的に言えば、最初に、個別産業の実態の把握・分析に関わる代表的指標や分析手法を系統的に理解する。次に、自分が関心をもった産業に関する一般的な分析手法を習得する。

●講義計画

- 第1回 産業研究の目的と方法
- 第2回 グローバル型産業と地域固有型産業
- 第3回 イノベーション：基礎編
- 第4回 イノベーション：応用編
- 第5回 研究開発
- 第6回 知的財産権
- 第7回 完成品と中間財の関係
- 第8回 生産プロセス、供給システムと企業間関係
- 第9回 サービス産業の分析
- 第10回 サービスをめぐる競争
- 第11回 小売販売形態の変化と産業組織
- 第12回 伝統的産業と新興産業
- 第13回 産業競争力と企業の競争優位性
- 第14回 産業研究と実態分析
- 第15回 産業研究と企業研究の要諦

●成績評価基準と方法

平常点50%、期末レポート50%

評価方法として、平常点とは、講義内容に対する質問や意見を出すこと。期末レポート（小論文）では、自分が検討するテーマや検討対象とする課題の明示、論理的な説明と検討・分析を通じて明らかにした事柄（結論）を提示できていること。

評価方法は、講義内容に関わる専門的知識を的確に把握できていること（講義内容と意見が異なる点はまったく問題でない）、関連する論点の提示や説明とそれに対する検討のプロセスが読み取れ、分析を通じて導いた結論または自分の見解が提示されていること。

●テキスト又は参考文献

使用しない。必要に応じて、参考文献を指示し、資料を配布する。

●受講上の留意点

- ・研究課題を見つけるための問題意識をもつとともに、講義を通じて研究上の着眼点や基礎的研究方法を修得すること。
- ・講義で取り上げる産業や内容は、講義に参加する学生の希望に応じて適宜変更する。